

## 経済学部商業学科通信教育課程

## I 2022年度 大学評価委員会の評価結果への対応

## 【2022年度大学評価結果総評】(参考)

経済学部商業学科通信教育課程は通学課程と同水準の教育内容を提供することを目標としており、カリキュラムの体系化とその受講生への明示など、適切なカリキュラム改善の努力がなされている。

通信教育課程の特徴として、通学課程よりも多様性に富んだ社会経験と学習ニーズをもつ学生の入学が見込まれるが、それゆえにミスマッチを回避するよう心掛けることが不可欠となる。

慎重な入学判定の実施により、離籍率が昨年度と比べ3%弱減少したことは評価できるが、引き続き注視することが望まれる。

定員充足についての対応は長期的な取り組みとなるが、志願者数の増加に向けての取り組みに期待したい。Web学習サービスによる授業計画管理、多様な学習ガイダンスに加えて、教員とのコミュニケーション機会を様々な回路で準備することにより、質の高い教育の提供に努められており、この点は大いに評価できる。コロナ禍による通学課程のオンライン授業の経験の蓄積は、通信教育課程にもさまざま活かせると思われるので、今後は、(大学の予算の許す範囲での)通学課程と同様のHoppiiの導入要請や、オンライン授業のなかの通学課程用「オンデマンド」型教材の、柔軟な利活用など、通教担当の専任教員の負担が少しでも軽減されるような、オンライン授業のノウハウの有効活用を図ってゆくと良いのではないかと。

各種スクーリングについては更なる充実化を図るため、科目の多様化と質の改善に努めるとの目標を掲げており、一層の充実を期待したい。

## 【2022年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】

通信教育課程においても通学課程と同水準の教育内容を提供すべく、カリキュラムの体系化を試みているため、ホームページや対面において受講生へその旨を明示するなど、今後もカリキュラム改善の努力とその広報を継続したい。成績評価や単位認定に関しては、これまで通り学務委員によるシラバスの第三者確認を厳密に行なった上で、成績評価について今後も教授会で情報共有する。また、若年層の受講生の増加に伴い、初年次教育の必要性が高まっていると考えられるため、通信学習およびスクーリング授業の担当者がこの点からカリキュラムの再考を開始することにより、さらなる教育の質の改善に努める。

通信学習に加えて豊富に提供されているスクーリングは、2022年度には各種スクーリングを対面で行い、一部のスクーリングで「通信学部生のつどい」も開催することができたため、2023年度には、学習を深化させ教員と学生間、および学生同士の交流を促すこのような機会を、感染防止対策を講じながら、できる限り確保する。

一方で、近年要望が拡大しているメディアスクーリング科目については、新規2科目の開講を実現させ、さらなる開講希望を募る。また、オンライン形式のスクーリングの常設についても検討を始める。そして、通学課程用オンデマンド型教材を通信教育課程にも活用するなど、柔軟な利用を考慮してメディアスクーリング科目の拡充を図りたい。また、LMSの機能改善あるいは新たな学習管理システムの導入要請も行い、通学課程のオンライン授業の経験を通信教育課程にも応用できるよう考慮したい。

定員充足については、2022年度には減少に転じた志願者数・入学者数の動向を注視し、上述した教育の質の向上に関する取り組みに加え、通信教育課程の事務局とも連携しながら、必要が生じれば臨機応変な対策を考案したい。離籍率は多少の減少傾向にあるため、多様性に富んだ志願者の受け入れ選考時に、本学科への適性や学習意欲を注意深く判断することで、学生ニーズと提供するカリキュラムとのミスマッチを回避する慎重な入学判定の実施を継続する。いずれにせよ、志願者数・入学者数・離席率については、今後も新型コロナウイルスの感染症の影響も考慮しながら慎重に、かつ長期にわたって注視する必要がある。

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

## II 自己点検・評価

### 1 教育課程・学習成果

#### (1) 点検・評価項目における現状

##### 1.1 授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。

1.1①授与する学位ごとに、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を記入してください。	
学位授与の方針は、「自由と進歩」の建学の精神を理解し、年齢に関係なく学問的関心を持ち続け、何事にも挑戦し続ける姿勢を持っていること。その上で、人文・社会・自然などに関する幅広い教養と、通学課程と同一水準の、時代の先端を行く専門分野の学識を習得し、生涯学習社会において、自立的に自由な発想と柔軟な判断が出来る能力を習得していること。 経営学・商学、会計学・ファイナンス、経済学、および情報・統計学などの分野を網羅した専門科目を履修し、所定の科目を含め 124 単位を修得した者に対し、学位を授与する。	
1.1②上記のディプロマ・ポリシーには、学生が修得することが求められる知識、技能、態度等、当該学位にふさわしい学習成果が示されていますか。	はい
1.1③上記のディプロマ・ポリシーを公表していますか。	はい
【根拠資料】	
<ul style="list-style-type: none"> <li>法政大学通信教育部商業学科の教育理念・方針の公開ホームページ： <a href="https://www.tsukyo.hosei.ac.jp/outline/policy/diploma.html#menu">https://www.tsukyo.hosei.ac.jp/outline/policy/diploma.html#menu</a></li> <li>『学習のしおり』2022</li> </ul>	

##### 1.2 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。

1.2①授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）を記入してください。	
通学課程と同様であることを原則とするが、多様な学習ニーズを持つ通信教育部の学生に配慮し、通信教育部独自のカリキュラムを編成している。併せて、メディア授業をはじめ、地方・週末スクーリング等、社会人学生の利便性向上を目的とした授業形態を工夫している。 経営専門科目を中心としたカリキュラムは、経営学・商学、会計学・ファイナンス、経済学、および情報・統計学などを幅広く網羅したものである。	
1.2②上記のカリキュラム・ポリシーには、学習成果の達成を可能とするための教育課程の編成（教育課程の体系、教育内容）・実施（教育課程を構成する授業科目区分、授業形態等）方針が示されていますか。	はい
1.2③上記のカリキュラム・ポリシーを公表していますか。	はい
【根拠資料】	
<ul style="list-style-type: none"> <li>法政大学通信教育部商業学科の教育理念・方針の公開ホームページ： <a href="https://www.tsukyo.hosei.ac.jp/outline/policy/curriculum.html#menu">https://www.tsukyo.hosei.ac.jp/outline/policy/curriculum.html#menu</a></li> <li>法政大学通信教育部商業学科のカリキュラムツリーの公開ホームページ： <a href="https://www.tsukyo.hosei.ac.jp/common/doc/faculty/business/subject/curriculum-tree.pdf">https://www.tsukyo.hosei.ac.jp/common/doc/faculty/business/subject/curriculum-tree.pdf</a></li> <li>法政大学通信教育部商業学科のカリキュラムマップの公開ホームページ： <a href="https://www.tsukyo.hosei.ac.jp/common/doc/faculty/business/subject/curriculum-map.pdf">https://www.tsukyo.hosei.ac.jp/common/doc/faculty/business/subject/curriculum-map.pdf</a></li> <li>『学習のしおり』2022</li> </ul>	

##### 1.3 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

1.3①単位制度の趣旨に沿った単位の設定を行っていますか。	はい
1.4 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	
1.4①「法政大学通信教育部学則」第30条（年間履修単位の上限）に基づき、1年間又は学期ごとの履修登録単位数の上限設定を行っていますか。	はい
1.4②学生の履修指導を適切に行っていますか。	はい
1.4③学生の学習指導を適切に行っていますか。	はい
1.4④シラバスの内容の適切性と授業内容とシラバスの整合性を確保していますか。	はい
【根拠資料】	
<ul style="list-style-type: none"> <li>『学習のしおり』2022</li> <li>Web学習サービスによる授業計画管理</li> <li>学習ガイダンス（事務ガイダンス、卒業生による体験ガイダンス・相談、教員による学習指導、教職ガイダンス）による履修指導を行っている。（2022年度は新型コロナウイルス感染症のリスクを考慮して、教職ガイダンス1回を対面、学習ガイダンス2回をオンラインにて実施）</li> <li>通信教育部学習環境・サポート制度：<a href="https://www.tsukyo.hosei.ac.jp/support/">https://www.tsukyo.hosei.ac.jp/support/</a></li> <li>『法政通信』、各年月号</li> <li>質保証委員会を主催する教授会執行部でもある通信教育課程主任と学務委員による全科目のシラバス第三者確認</li> <li>授業改善アンケート質問事項「授業の運営が適切であった」等、ならびに通学過程の相互授業参観にて通信教育課程の授業とも共通した授業内容とシラバスの整合性を確認、およびその相互授業参観報告を教授会執行部で共有、実施状況報告書（総括文書）を教授会にて共有</li> </ul>	
1.5 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	
1.5①「法政大学通信教育部学則」第32条（既修得単位の認定）に基づき、既修得単位などの適切な認定を行っていますか。	はい
1.5②「法政大学通信教育部学則」第29条（卒業所要単位）に基づき、卒業の要件を明確にし、刊行物、ホームページ等のいずれの方法によっても、あらかじめ学生に明示していますか。	はい
1.5③成績評価の客観性、厳格性、公正性、公平性を担保するための措置を講じていますか。	はい
【根拠資料】	
<ul style="list-style-type: none"> <li>法政大学通信教育部商業学科の学部・学科・教職課程 公開ホームページ：<a href="https://www.tsukyo.hosei.ac.jp/faculty/business/">https://www.tsukyo.hosei.ac.jp/faculty/business/</a></li> <li>『学習のしおり』2022</li> <li>シラバス第三者確認により、すべての通信学習・スクーリング学習科目のシラバスにて成績評価の方法と基準を明確に記載しているかを学務委員が確認</li> <li>レポートや筆記試験における不正行為については、基本的に個別教員の判断に委ねるが、不正行為が発覚した場合は、経営学部教授会にて厳正な処分を行い、通信教育部学務委員会と情報共有</li> <li>他大学、専門学校、本学通学課程からの編入学生の既修得単位の認定は、事務と連携し、学務委員が通読判定の際、厳正に対応</li> <li>進級判定は、卒業判定と併せて経営学部教授会にて審議</li> <li>在学年限を超えた学生の再入学について学務委員が公正に審査</li> </ul>	

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

1.6 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。

1.6①授与する学位ごとに、アセスメント・ポリシーを記入してください。

商業学科では、学生の学修成果について、アドミッション・ポリシー（学生の受け入れ方針）、カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）の3つのポリシーに照らして、下記のとおり検証を行う。

<教育課程におけるアセスメント・ポリシー>

1. 入学段階において、出願資格の精査、面接、出願書類に基づく学習意欲・能力・基礎学力の評価等を用いて、アドミッション・ポリシーで求める能力・意欲が身についているかの評価を行う。
2. 1年次においては、教養課程科目（一般教育及び外国語中心）と基礎専門教育課程科目を通じた導入教育、少人数教育やアクティブラーニングの場での取り組みと成果を通じて、大学生に必要な自主的な学習方法が身についているかの評価を行う。
3. 2～3年次においては、専門教育課程科目における研究課題の提出と学習成果の評価、演習科目における論文執筆、作品制作等の教育並びに研究成果の実績・評価等を用いて、ディプロマ・ポリシーが求める知識・能力が身についているかの評価を行う。
4. 4年次では、卒業論文、単位修得状況、成績評価等を用いて、ディプロマ・ポリシーで求める知識・能力が身についているかの評価を行う。
5. 卒業時アンケート等を用いて、「実社会で通用する問題発見力・課題解決力を養うこと」という教育目標が達成されているか検証を行う。

<科目ごとのアセスメント・ポリシー>

科目ごとの学生の学修成果については、シラバスに定める「成績評価の方法と基準」に基づき、「到達目標」に掲げる知識、能力が身についているか評価を行う。

1.6②上記のアセスメント・ポリシーは、分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標となっていますか。	はい
--	----

1.6③授与する学位ごとに、アセスメント・ポリシーに基づき学生の学習成果を把握していますか。	はい
--	----

1.6④学習成果を可視化していますか。	はい
---------------------	----

【根拠資料】

- ・ 通信教育課程主任と学務委員設置による運営責任の明確化した組織体制の整備。通信教育課程主任と学務委員は、月1回を目安に定期的開催される通信教育学務委員会に出席すると共に、通読判定などの入学選考から卒業に至るまでの学習成果の評価を含む各種学事事項の審議に参加、その詳細について経営学部教授会と緊密に連携
- ・ 『学習のしおり』2022
- ・ 法政大学 WEB シラバス : <https://syllabus.hosei.ac.jp/web/show.php>（通信教育部商業学科参照）
- ・ 商業学科の学習分野は多様であるため、その学習成果の測定については、すべての科目のシラバスに適切に記載。シラバスの第三者確認として、商業学科の学務委員二名は、シラバスに成績評価の方法と基準について不明確な記述がないかなどを開講時期に合わせて順次確認

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

- ・ 個別学生の学習成果は、修得科目の状況やその成績によって把握。通信教育科目は、レポート添削に加え、単位修得試験によって学習成果を測定。スクーリング科目は、授業参加度と授業最終日に実施する最終試験で、メディアスクーリング科目は最終試験に加えて中間レポートを課すなどにより、それぞれ学習成果を把握。
- ・ 学習成果は、レポート添削や単位修得試験などによって適切に測定や評価。レポートや卒業論文などの学習成果物に対しては、科目担当教員に対して不正行為防止用ソフトウェアの利用を促し、学習成果の客観的な評価を奨励
- ・ 成績分布（GPA・GPCA 集計資料）、学生アンケート、レポート提出数、単位修得試験受験者数、スクーリング受講者数等のデータは、通信教育学務委員会を通じて教授会に報告し、情報共有

(2) 特色・課題

<p>以下の項目の中で、学部・学科として特に「特色」として挙げられるもの、もしくは「課題」として今後改善に取り組んでいきたいものを選択し、内容について記入をしてください。</p>	
<p><b>【教育課程・教育内容】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教育目標、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーの適切性と関連性の検証</li> <li>・ 学生の能力育成のための、教育課程の編成・実施方針に基づいた教育課程・教育内容の適切な提供</li> <li>・ 教育課程の編成にあたっての順次性及び体系性への配慮（個々の授業科目の内容・方法、授業科目の位置づけ（必修・選択等含む）への配慮が行われている。また教養教育と専門科目の適切な配置が行われている。）</li> </ul>	
<p><b>【教育方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業がシラバスに沿って行われているかの検証（後シラバスの作成、相互授業参観、アンケート等）</li> </ul>	
<p><b>【学習成果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 成績評価及び単位認定を行うための制度や学位授与の実施手続き及び体制についての適切な運用</li> <li>・ アセスメント・ポリシーに基づいた学習成果を把握する取り組み。</li> <li>・ アセスメント・ポリシーに基づき学習成果を定期的に検証し、その結果をもとにした教育課程およびその内容、方法の改善・向上に向けた取り組み</li> </ul>	
特色	<p>学生の能力育成のための、教育課程の編成・実施方針に基づいた教育課程・教育内容の適切な提供</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 通信学習科目や各種スクーリング科目に加え、メディアスクーリング 21 科目を安定的に設置して経営学・商学、会計学・ファイナンス、経済学、および情報・統計学などの分野を網羅した専門科目を幅広く履修できるよう整備している。</li> <li>・ スクーリング科目は学習効果を深めるばかりでなく、学生同士や学生と教員との意思疎通を促進する重要な機会とも捉えられるため、コロナウィルス感染症の状況に応じて対策を取りながらできる限り対面で実施しているが、緊急時にはオンラインでも指導可能であることを確認した上で授業担当者を決定している。</li> </ul>	
<p>その他、上記項目以外で学部・学科として「特色」として挙げられるもの、または「課題」として今後改善に取り組んでいきたいものがありましたら記入してください。</p>	
特色	
<p>今後 2024 年以降にオンラインで行うスクーリングを常設するか検討を行い、スクーリング科目のさらなる多様化を図る予定である。メディアスクーリング科目は学生の需要もますます高まっているため、今後も拡充する見通しである。</p>	
課題	
<p>コロナ禍においてオンラインでの教育が発展したため、今後は通学課程用オンデマンド型教材を通信教育課程にも活用するなど、柔軟な利用を考慮してメディアスクーリング</p>	

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

科目の拡充を図りたい。

## 2 学生の受け入れ

### (1) 点検・評価項目における現状

#### 2.1 学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。

2.1①学部ごとに学生の受け入れ方針(アドミッション・ポリシー)を記入してください。

「社会に開かれた大学」として、高等教育の門戸を広く開放することは、通信教育課程の使命であると言える。このため、学ぶ意欲のある幅広い年齢層に対し、「いつでも、どこでも」学ぶことが出来る環境を整備することが必要である。その上で、高等教育機関であることを大前提として、学問に真摯に取り組み、生涯学習社会にあって、自己の知識や能力を社会に還元する意欲を持った人材を受け入れることを基本方針としている。

2.1②上記のアドミッション・ポリシーには、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえた、入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像や、入学希望者に求める水準等の判定方法が明確に示されていますか。

はい

2.1③上記のアドミッション・ポリシーを公表していますか。

はい

#### 【根拠資料】

- ・ 法政大学通信教育部商業学科の教育理念・方針 公開ホームページ：  
<https://www.tsukyo.hosei.ac.jp/outline/policy/admission.html#menu>
- ・ 法政大学通信教育部入学試験要項

#### 2.2 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。

2.2①アドミッション・ポリシーに基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制をどのように適切に整備していますか。また、入学者選抜をどのように公正に実施していますか。

- ・ 学務委員2名体制で年7回の通読判定を行い、厳正に入学選考を実施している。
- ・ 学生募集および入学者選抜結果については、毎年度、通信教育学務委員会で志願者数、合格者数、入学者数等の関連データが、ともに適宜報告される。データを踏まえ、通信教育課程主任および学務委員が現状と課題を教授会にフィードバックしている。また、志願者選考(通読判定)等は通信教育課程主任と学務委員が実施・検証している。

#### 2.3 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

2.3①【2023年5月1日時点】学部・学科における入学定員充足率の5年平均又は収容定員充足率は、下記の表1の数値を満たしていますか。

いいえ

#### 2.4 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

2.4①上記項目において【いいえ】と回答した場合は、その理由と改善に向けた今後の取り組みについて記入してください。

- ・ 通信教育課程の定員数は通学過程と異なり、実態を大幅に超えているため、充足する可能性はほぼ確実でないのが実情である。
- ・ ただし、通信教育学務委員会において、出願者数や入学者数の推移を共有し常に把握している。
- ・ 入学者増加のためには、市ヶ谷キャンパスでの入学説明会に加え、全国各地で他大学

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

と合同の入学説明会も開催している。時間に余裕のない学生や地方の学生にとっても利用しやすいメディア スクーリングも商業学科では 20 科目以上開講し、さらなる拡充を検討している。

- ・ 入学希望者のニーズと商業学科の提供価値のミスマッチを防ぐため、2名の学務委員が入学願書の可否判定審査を厳格に進めている。
- ・ 離籍者を最小限にとどめるため、学習ガイダンスにおいて通信課程での学びに必要な姿勢や心構え、日々の学習方法やレポートの書き方などを指導し、2023年度以降、通信学習やスクーリング科目においても初年次教育に注力していく予定である。

表 1

学部・学科における過去5年間の入学定員に対する入学者数比率の平均	0.90～1.20 未満
学部・学科における収容定員に対する在籍学生数比率	0.90～1.20 未満

### 3 教員・教員組織

#### (1) 点検・評価項目における現状

#### 3.1 教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。

3.1①教員組織の規模について、教育研究上必要となる数の専任教員がいますか。	はい
3.1②専任教員の専門性や、主要科目への配置など、教育を実施するうえでどのような体制をとっていますか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 組織的な教育を実施する上において経営学部執行部を設置している。学部執行部の構成は学部長 1 名、教授会主任 1 名、教授会プログラム主任 1 名、教授会副主任 1 名、通信教育課程主任 1 名で、原則として月 1 回の教授会および原則として月 1 回の通信教育学務委員会/教養教育部会を開催している。</li> <li>・ 大学通信教育設置基準の附則 3「この省令施行の際、現に通信教育を開設している大学の組織、編成、施設及び設備で、この省令の施行の日前に係るものについては、当分の間、なお従前の例によることができる」に抛り、通信教育課程専属の専任教員は配置していないが、教科担当者に必ず専任教員を配置し、また通学課程の教員が通信教育課程も併せ行う形で教育を行っていることで、カリキュラムにふさわしい教員組織を備えていると判断している。</li> </ul>

### 4 学生支援

#### (1) 特色・課題

以下の項目の中で、学部・学科として特に「特色」として挙げられるもの、もしくは「課題」として今後改善に取り組んでいきたいものを選択し、内容について記入をしてください。	
【学生支援】	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学生の能力に応じた補習教育、補充教育</li> <li>・ 学生の自主的な学習を促進するための支援</li> <li>・ 学習の継続に困難を抱える学生（留年者、退学希望者等）への対応</li> <li>・ 成績不振の学生の状況把握と指導</li> </ul>	
特色	学生の自主的な学習を促進するための支援
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 通信教育部商業学科では、2013 年度より会計系の専門学校として有名である学校法人大原学園と業務提携をし、併修制度を運用しており、今後も同制度を継続する見込みであり、様々な経歴の学生の受け入れに繋がる可能性がある。</li> <li>・ 通信教育部ホームページにおいて卒業生による体験談の充実を進めるなど卒業生との連携の強化を図っている。これにより、本学の教育研究の魅力についてより広い周</li> </ul>	

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

<p>知が期待できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>情報実習など一部科目においては、通学課程同様、ティーチング・アシスタント（T・A）を採用可能とし、教育研究支援の一助とすることができる。</li> </ul>
<p>その他、上記項目以外で学部・学科として「特色」として挙げられるもの、または「課題」として今後改善に取り組んでいきたいものがありましたら記入してください。</p>
<p><b>特色</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>効果的な学習を支援する仕組みの一環として、通信教育課程の事務局である通信教育部事務部にて学生担当を置き、学生の生活相談も含め学生対応に力を入れている。</li> <li>またスクーリング開催時における学生周知文書等において、各種ハラスメントに対する防止やダイバーシティー宣言について書面で案内を行っている。また、必要に応じて、学内に設置されている学生相談室やハラスメント相談室の活用案内もしている。（『学習のしおり 2022』、p. 160, p.232）</li> </ul>
<p><b>課題</b></p> <p>通信教育部全体の問題でもあるが、現時点において通学課程で運用中の授業支援システムのような教育環境が整備されていないため、LMSの機能改善あるいは新たな学習管理システムの導入要請も行いたい。</p>

### III 2022 年度中期目標・年度目標達成状況報告書

評価基準	理念・目的	
中期目標	幅広い年齢層や若年層の入学増加を視野に入れ、多種多様な学問的関心や入学動機に応じるカリキュラムを提供し、実社会で通用する問題発見力・課題解決力を養う教育・学習環境の整備を推進する。	
年度目標	－	
達成指標	－	
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	－
	理由	－
	改善策	－
評価基準	内部質保証	
中期目標	学習過程・単位修得方法の厳正化	
年度目標	－	
達成指標	－	
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	－
	理由	－
	改善策	－
評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】	
中期目標	通信教育での学び直しの取り組み状況を振り返り、今後の取り組みのあり方・方向性を整理する。特に入学者比率が増加傾向にある若年層にも対応したコンテンツの作成などの施策を検討する。	
年度目標	通学課程と同一水準の教育が受けられるカリキュラムであることの周知に努める。	
達成指標	通信教育部、経済学部商業学科のホームページにて、通学課程のカリキュラムと同一水準であることを発信するに加え、対面での周知の可能性を探ると共に、「通信教育部生のつどい」などでも周知に努める。	
年	教授会執行部による点検・評価	

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。



度 末 報 告	自己評価	A
	理由	ホームページにより通学課程のカリキュラムと同一水準であることは発信しているが、新型コロナウイルス感染症が終息していないことから、冬期スクーリングのみで「通信教育部生のつどい」を実施し、学生の要望を汲み取ることに努めた。
	改善策	－
評価基準		教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
中期目標		各種スクーリングに付き、更なる充実化を図る。
年度目標		新型コロナウイルス感染症の動向に左右されないスクーリング科目の安定的な実施方法を模索する。メディアスクーリング科目の一層の拡充を図り、各種スクーリング科目の多様化と質の改善に努める。
達成指標		スクーリング科目は、可能な限り対面での授業とするが緊急時にはオンラインでも対応可能かどうかを打診した上で担当を依頼する。授業運営のノウハウを適宜、教授会等で情報共有する。その他のスクーリングについても、担当教員の配置が適切に行われているかを教授会などで検証する。
教授会執行部による点検・評価		
年 度 末 報 告	自己評価	S
	理由	スクーリング科目について、オンラインと対面のどちらでも対応可能と承諾いただいた上で担当を依頼し、2023年度の一層の拡充に向け2科目の新設準備を開始した。授業運営のノウハウは、教授会で情報共有した。担当教員の配置については、教授会審議により適正かどうかを検証した。
	改善策	－
評価基準		教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
中期目標		在学期間の短縮化に努める。
年度目標		担当教員に、レポート添削、単位修得試験、スクーリングの最終試験などで成績管理や学習指導の徹底化を呼びかける。
達成指標		授業形態別成績分布、取得単位の推移などのデータに基づき、中長期的な視点で効果の測定を行う。授業改善アンケート、「通信教育部生のつどい」などから学生の要望を汲み取る。
教授会執行部による点検・評価		
年 度 末 報 告	自己評価	A
	理由	授業形態別成績分布や取得単位数の推移などのデータにより効果測定を行った。レポートの合格率は70%まで回復し、成績管理の徹底かの成果が出ていると思われる。学生の要望は授業改善アンケートにより汲み取り翌年度のシラバスに反映されたが、「通信教育部生のつどい」は新型コロナウイルス感染症の流行期と重なったため冬期スクーリングのみでの実施となったが、これは想定内であった。
	改善策	－
評価基準		教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
中期目標		離籍者の軽減に努める。
年度目標		各担当教員にレポートの書き方指導など、学習意欲を高めるための工夫の呼びかけを継続する。入学希望者のニーズと商業学科の提供価値のミスマッチを防ぐために入試判定の厳格化を進める。
達成指標		計画的な学習プランの提示などを通じて、中長期的な観点から離籍率の推移を把握しつつ、学務委員が中心となって入試判定の厳格化を進める。
年	教授会執行部による点検・評価	

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

年度末報告	自己評価	A
	理由	離籍率は 12.8%と低水準を維持した。入試判定は、引き続き学務委員が中心となり厳格に行なっており、その成果が出ているものと考えられる。
	改善策	－
評価基準		学生の受け入れ
中期目標		定員充足に向け、引き続き取り組んでいく。
年度目標		授業のコンテンツ充実化を進めるとともに、授業の質の改善に積極的に取り組むことによって、志願者数の増加を図る。
達成指標		商業学科の入学者数と在籍者数は学科単位としては最も多く、すでに一定の水準に達しているが、引き続き入学者数の推移を検証していく。
教授会執行部による点検・評価		
年度末報告	自己評価	B
	理由	入学者数は 2020・2021 年度の増加から転じ、昨年度から 58 名減少し、コロナ以前の水準に戻った。
	改善策	商業学科の評判は向上していると考えられるため、コロナ渦の影響による増加の反動と推測されるが、今後の出願者・入学者の動向に注視し必要な場合には早期に対策を取る。
評価基準		教員・教員組織
中期目標		教育理念と目的を達成するために通信学習と各種スクーリング担当の教員を適切に配置・構成する。教員の採点作業の軽減に向けて、通信教育部システムの採点 Web 化の仕様と運用方法の検討を行う。
年度目標		専任および兼任教員の専門性を考慮し、バランスのとれた通信学習科目とスクーリング科目の開講に努める。近年増加傾向にある教育負担の平準化も並行して実施する。
達成指標		学務委員が中心となり、通信教育学務委員会と教授会が連携をとりながら、科目担当教員が適切に配置されているかを検証していく。
教授会執行部による点検・評価		
年度末報告	自己評価	A
	理由	学務委員が中心となり、専門性と開講形態においてバランスがとれた科目担当教員の配置を行い、教授会で咨ることによって配置が適切かを検証した。
	改善策	－
評価基準		学生支援
中期目標		不正行為を防止するための指導を適宜・随時行う。社会環境の変化と学習の ICT 化に対応した教育サービスを構築する。
年度目標		メディアスクーリングの充実や学習ガイダンスのオンライン実施など ICT 化を進める一方で 2020 年度以前の入学者でインターネット環境を整えることが困難な学生のニーズにも対応する。
達成指標		メディアスクーリングの履修状況や授業改善アンケートから学生のニーズを把握すると共に、学生への機器や学習環境サポートなどの利用状況を把握し、今後の ICT 体制に向け調整を図る。
教授会執行部による点検・評価		
年度末報告	自己評価	A
	理由	授業形態別の不正行為に関するデータは蓄積できている。不正行為を予防する対応は、授業等を通じてこれまでどおり実施できており、不正行為には厳正に対処した。スクーリングを 対面で 実施したため インターネット関連の支援は特に必要がなかった。
	改善策	－

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

評価基準	社会連携・社会貢献	
中期目標	社会人教育、生涯学習、再学習、社会連携の更なる強化を目指す。	
年度目標	多様な学習ニーズに応えるため、開かれた姿勢で学生を受け入れ、卒業生と在校生の繋がり場の強化していく。障がい者などを含む社会的弱者に対して一層の配慮を心がける。	
達成指標	本学科と大原学園間の併修協定による成果を引き続き検証する。卒業生による体験談などを通信教育部ホームページなどで引き続き公表し、先輩による学習モデルの提示と勉学の動機付けを行う。	
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	卒業生による体験談などの公表により学習モデルの提示と勉学の動機付けは行うことは、ホームページ等を通じて引き続き実施できている。
	改善策	—
<p>【重点目標】</p> <p>COVID-19 環境下での各種スクーリング科目授業の安定的な実施を模索しつつ、今後も各種メディアスクーリング科目の提供を維持し、多様な科目提供の継続に努める。</p> <p>【目標を達成するための施策等】</p> <p>オンライン対応が困難な学生のニーズに応えるため、2022 年度以降のスクーリングは状況が許す限り対面での開講を目指す。ただし COVID-19 の動向を見ながら、緊急時にはオンラインでも対応可能であることを打診した上で授業担当を依頼し、開講科目数の確保に努める。</p> <p>【年度目標達成状況総括】</p> <p>COVID-19 の感染状況を考慮しつつ対策を取りながら、各種スクーリングを対面で行うことができ、冬期スクーリングでは「通信教育部生のつどい」を再開した。また メディアスクーリング科目も 21 科目を安定的に設置し、今後拡充する見通しである。緊急時にはオンラインでも対応可能であることを確認した上で授業担当を決定し、各種スクーリング科目を着実に提供した。入学者数は減少に転じ COVID-19 前の水準に戻ったため、今後注視する必要がある。</p>		

#### IV 2023 年度中期目標・年度目標

評価基準	理念・目的
中期目標	幅広い年齢層や若年層の入学増加を視野に入れ、多種多様な学問的関心や入学動機に応じるカリキュラムを提供し、実社会で通用する問題発見力・課題解決力を養う教育・学習環境の整備を推進する。
年度目標	—
達成指標	—
評価基準	内部質保証
中期目標	学習過程・単位修得方法の厳正化
年度目標	—
達成指標	—
評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
中期目標	通信教育での学び直しの取り組み状況を振り返り、今後の取り組みのあり方・方向性を整理する。特に入学者比率が増加傾向にある若年層にも対応したコンテンツの作成などの施策を検討する。
年度目標	通学課程と同一水準の教育が受けられるカリキュラムであることの周知に努める。初年次教育の一環として、学習意欲を高めるための工夫やレポートの書き方指導などアカデミック・リテラシーを高める取り組みを開

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

	始する。
達成指標	通信教育部、経済学部商業学科のホームページにて、通学課程のカリキュラムと同一水準にあることを発信するに加え、対面での周知の可能性を探ると共に、「通信教育部生のつどい」などでも周知する。
評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
中期目標	各種スクーリングに付き、更なる充実化を図る。
年度目標	新型コロナ感染症の動向に左右されない実施方法でスクーリング科目を安定的に提供する。メディアスクーリング科目の一層の拡充やオンラインでのスクーリングの常設の可能性を探り、各種スクーリング科目の多様化と質の改善に努める。
達成指標	スクーリング科目は、可能な限り対面での授業とするが緊急時にはオンラインでも対応可能な担当者を選出し、タスクフォースを立ち上げてオンラインスクーリングの常設について検討する。通信学習やスクーリングについても、担当教員の配置が適切に行われているかを教授会などで検証する。
評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
中期目標	在学期間の短縮化に努める。
年度目標	担当教員に、レポート添削、単位修得試験、スクーリングの最終試験などで成績管理や学習指導の徹底化を呼びかける。
達成指標	授業形態別成績分布、取得単位の推移などのデータに基づき、中長期的な視点で効果の測定を行う。授業改善アンケート、「通信教育部生のつどい」などから学生の要望を汲み取る。
評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
中期目標	離籍者の軽減に努める。
年度目標	入学希望者のニーズと商業学科の提供価値のミスマッチを防ぐために入試判定の厳格化を進める。
達成指標	計画的な学習プランの提示などを通じて、中長期的な観点から離籍率の推移を把握しつつ、学務委員が中心となって入試判定の厳格化を進める。
評価基準	学生の受け入れ
中期目標	定員充足に向け、引き続き取り組んでいく。
年度目標	コロナ禍での入学者増加から転じ、2022年度の入学者数が減少したため、授業のコンテンツ充実化を進めるとともに、授業の質の改善に積極的に取り組むことによって、志願者数の増加を図る。
達成指標	教育の質の改善が行われた個々の事例によって効果を検証する一方で、入学者数の推移を検証し、必要に応じて措置を検討する。
評価基準	教員・教員組織
中期目標	教育理念と目的を達成するために通信学習と各種スクーリング担当の教員を適切に配置・構成する。教員の採点作業の軽減に向けて、通信教育部システムの採点 Web 化の仕様と運用方法の検討を行う。
年度目標	専任および兼任教員の専門性を考慮し、バランスのとれた通信学習科目とスクーリング科目の開講に努める。近年増加傾向にある教育負担の平準化も並行して実施する。
達成指標	学務委員が中心となり、通信教育学務委員会と教授会が連携をとりながら、科目担当教員が適切に配置されているかを検証していく。
評価基準	学生支援
中期目標	不正行為を防止するための指導を適宜・随時行う。社会環境の変化と学習の ICT 化に対応した教育サービスを構築する。

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

年度目標	メディアスクーリングの充実を進める一方で、学習ガイダンスのオンライン実施など ICT 化を継続し、今後一部のスクーリングをオンラインで常設する可能性を模索する。
達成指標	メディアスクーリングの履修状況や授業改善アンケートから学生のニーズを把握すると共に、ICT化を進める上での課題を洗い出し今後の調整に向けた準備を行う。
評価基準	社会連携・社会貢献
中期目標	社会人教育、生涯学習、再学習、社会連携の更なる強化を目指す。
年度目標	多様な学習ニーズに応えるため、開かれた姿勢で学生を受け入れ、卒業生と在校生の繋がり場を強化していく。障がい者などを含む社会的弱者に対して一層の配慮を心がける。
達成指標	本学科と大原学園間の併修協定による成果を引き続き検証する。卒業生による体験談などを通信教育部ホームページなどで引き続き公表し、先輩による学習モデルの提示と勉学の動機付けを行う。
<p><b>【重点目標】</b>                  各種スクーリング科目を可能な限り対面で安定的に実施しつつ、今後もメディアスクーリング科目の拡充を進め多様な科目提供を図る一方で、既存科目の教育の質の向上にも継続的に取り組む。</p> <p><b>【目標を達成するための施策等】</b>                  通学課程用オンデマンド型教材を通信教育課程にも活用する可能性なども検討し、柔軟で効率的なリソースの利用を含む新規開講科目の拡充を模索する。また学習意欲を向上させる工夫やアカデミック・リテラシーを高める取り組みなどについて情報共有を行い、初年次教育の強化に向けた準備を行う。</p>	

### 【大学評価総評】

経済学部商業学科通信教育課程では、体系的なカリキュラムの整備および公表、学習成果の把握と評価、学生の受け入れや支援体制の構築などにおいて、適切な改革の努力が行われている。

通信教育課程の特徴として、通学課程よりも多様性に富んだ経験やニーズをもつ学生の入学が見込まれるが、それゆえにミスマッチを回避するための努力が肝要となる。慎重な入学判定の実施により、離籍率が低く抑えられていることは評価できる。一方で、学年別の退学・除籍率の推移を見ると、1年次の退学・除籍率が他の年次に比べてやや高い傾向が見受けられる。離籍者を最小限にとどめるため、学習ガイダンスでの学びに必要な姿勢や心構え、日々の学習方法などの指導や通信学習やスクーリング科目における初年次教育の充実を目標とされており、その成果が期待される。

コロナ禍の到来と収束の中、状況の変化に応じて対面形式のスクーリングや「通信教育部生のつどい」の再開、メディアスクーリング科目の増設など、柔軟にカリキュラムが運営されている点は高く評価できる。オンライン形式のスクーリングの常設や、通学課程用オンデマンド型教材の通信教育課程への応用、LMS の機能改善または新たな学習管理システムの導入など、ICT を活用した教育課程や授業編成の改革に引き続き積極的に取り組まれることを期待したい。

入学定員充足率の5年平均および収容定員充足率は基準値を満たしていないが、地方での入学説明会やメディアスクーリング科目数の拡充などの努力が功を奏して、在籍者数は2012年度を底に2000年代の水準に近いレベルまで回復しており、他方離籍率はその頃より減少している。学部としての努力に敬意を表したい。

### 【法令要件やその他の基礎的な要件の充足状況の確認】

2023年度自己点検・評価シートに記載された Ⅱ自己点検・評価(1)点検・評価項目における現状を	法令要件やその他の基礎的な要件が充足していない箇所がある
---	------------------------------

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

確認	
＜法令要件やその他の基礎的な要件が充足していない項目＞	
2.3①【2023年5月1日時点】学部・学科における入学定員充足率の5年平均又は収容定員充足率は、下記の表1の数値を満たしていますか。	

---

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。